

【バリアフリーと駐車場の問題】

- ・ センターの建物等にも利用する上での問題があり、1階と2階を繋ぐ階段の勾配が急であるため、高齢者や障害者にとって不便な施設である。また、センターの駐車場は、車での来所が多い状況に対して十分な広さがあるとは言えない。

【センターの災害対応の機能】

- ・ 地域住民の活動拠点であり災害時に避難所となる地区市民センターには、災害対応用の備蓄倉庫が無いことから、避難所としての機能が十分に発揮できない状況にある。

【センターは子どもの居場所】

- ・ センターのホールの一部や図書室は、中学生等の勉強の場、会話や遊びの場となっており、清原地区内における子どもの居場所の一つである。



■ 地域が抱えている課題

【文化活動も可能な公共スペースの確保】

- ・ 当地区は文化活動が盛んであり、全国大会規模の大会も開催されることから、これらに対応できる公共交流スペースを確保することが求められる。

【拠点施設としての機能向上】

- ・ 地区市民センターは、地区住民の情報発信・活動拠点あることから、災害対応力の向上とともに、利便性や快適性に配慮しながら、拠点施設としての機能を高めていく必要がある。

基本的な考え方

- ・ 市東部の拠点として広域的な交流や文化・情報の発信ができる場を創出する。また、地区市民センターについては、災害対応機能を充実させるとともに、すべての人々にやさしい施設として必要な機能を拡充することによって、人々が憩い集える場をつくっていく。

■ 私たちの今後の取り組み

【既存施設の活用と新たな公共交流スペースの整備】

- ・ 市東部の拠点にふさわしく、音楽鑑賞・発表（鬼怒の船頭唄全国大会）、展示会、イベント等が数多く開催され、広域的な交流や文化・情報の発信ができるよう、既存公共施設等を有効に活用していくとともに、新たな公共交流スペースとして多目的ホールが整備されるよう市に対し働きかけを行っていく。その際には、テクノ区域内の公益施設用地の活用も念頭に進める。

【地区市民センター機能向上への住民意見の反映】

- ・ 現在の施設を改築・改修する場合には、住民が利用しやすく、車椅子利用者などにも配慮したバリアフリーの施設となるよう、エレベーターの設置を含めた対応を検討し、また、新築する場合は、清原地区のどこからでも公共交通を使って誰でも気軽に来所できる場所に整備するなどが必要となるが、いずれの場合でも地域住民の意見を集約し反映できるようにする。

【地区市民センター災害対応機能の向上】

- ・ 地区市民センターが災害対応の拠点として有効に機能するよう、防災倉庫の物品等の一部移管するなどの対応を行うとともに、更なる機能向上策を地域版危機管理マニュアル作成の中で検討する。



地域の人々が描く将来の清原地区の姿 2

～ 工業団地の人々と地域との交流が深められている ～

- ・ 企業に勤務する多くの人々が清原地区の住民になり、宇都宮市の東部の拠点として、賑わいのある、また活力のある地域となっている。
- ・ 企業や就労者のPRによって清原地区の農産物などが全国に知られるようになり、清原ブランド商品の利用や消費拡大につながっている。
- ・ 基幹交通として新交通システムが導入され、朝夕の渋滞も解消し、従業員にとっても通勤しやすい工業団地となっている。

～ 農業への夢があふれる環境がつけられる ～

- ・ 清原の美味しいもの“きよはらグルメ(農産物の愛称例)”を栽培できる農家や加工品を作ることができる事業者(農業者)も育ち、地産地消が確立される一方で、市内や県外からも注文があり、買い物客が集まる施設があるなど魅力ある地域になっている。
- ・ 地区内の企業や事業所の農産物の利用拡大や大型農産物直売所の整備による消費拡大が実現され、農家の農業収入が安定し、後継者育成が図れる環境が整っている。

～ 文化による交流や情報発信機能が備えられる ～

- ・ 多目的ホールの整備により、音楽鑑賞・発表(鬼怒の船頭唄全国大会)、展示会、イベント等が数多く開催され、宇都宮市東部地域の文化・交流の拠点になっている。
- ・ 清原工業団地及び芳賀工業団地の各企業などが、研修・会議やイベント会場として多目的ホールを利用しており、工業団地の立地環境が高まっている。

〔7〕 快適に暮らしやすいまちをつくる

- ～ 福祉・医療の充実 ～
- ～ 豊かな自然と調和した住環境をつくる ～

◎ 福祉・医療の充実

■ 地域の現状

【福祉・医療施設の不足】

- ・ 若年世帯や高齢者が増加する中、子育て支援施設や高齢者福祉施設が少なく、特に救急や入院可能な医療施設が地区内にはない。

【地域による見守り活動の実施】

- ・ 地域で支えあう活動として、自治会(近隣の住民を含む)の民生委員児童委員と福祉協力員による見守り活動などを行っており、高齢者は近隣住民の支援や民生委員等による見守りへの期待が大きい(ビジョンアンケート結果より)。



■ これまでの地域の取り組み

【健康づくりなど予防的取組の実施】

- ・ 健康づくり教室の開催(自治会・健康づくりを推進する会主催)等により、地域住民の健康増進に取り組んでいる。
- ・ 平成22年度に地域スポーツクラブ「いきいきエンジョイ清原」を立ち上げ、「楽しみながら健康を保てる種目」や「心と身体を保つ安らぎのある充実した時間」を住民に提供しており、170名の会員(平成23年12月1日現在)により活動している。

■ 地域が抱えている課題

【地域福祉・医療の充実】

- ・ 地区への転入者が今後も見込まれ、子育て環境の充実は引き続き必要であり、高齢者も増加の一途をたどることから、住民の求める福祉・医療施設を増やしていくことは、喫緊の課題となっている。しかしながら、地域と行政のみでは解決することができないことから、“共助”のシステムを質・量ともに充実させることも必要である。

基本的な考え方

- ・ 施設福祉、施設医療の充実を図りつつ、地域住民が相互に支えあう取組をより一層行うことにより、安心して暮らすことができるまちをつくる。

■ 私たちの今後の取り組み

【地域が一丸となって取り組む】

- ・ 地域福祉・医療が抱える課題については様々な要因が絡むことから、地区社会福祉協議会等を中心に課題の分析を行い、中長期的な取組を含めて地域全体、各地区や団体、住民が行うものを整理する。その際には、福祉サービス(緊急通報システム事業など)を上手く活用するほか、課題の解決や事業の実施における「オール清原」体制での協議や取組もとり入れていく。

【健康づくり・子育てへの支援】

- ・ 健康を保持・増進させる取組は、見守り活動などへの地域や住民の負担を軽減することにつながることから、健康づくり教室などの予防的事業の充実を図る。
- ・ また、子育てサークルなどの活動は、幼児がいる世帯の支援策として有効であるため、活動内容等の周知に力を入れる。

◎ 豊かな自然と調和した住環境をつくる

■ 地域の現状

【豊かな自然に囲まれた地区】

- ・ 地区の西部には鬼怒川の清流が流れ、街路樹や平地山林など多くの緑に囲まれた地区である。

■ 地域の取組及び課題

【不法投棄の撲滅活動の強化】

- ・ 不法投棄の監視パトロールを実施するほか、恒常的に投棄される場所に防護柵の設置などを行っているが、投棄が続いていることから、撲滅に向けた対策の強化が必要となっている。

【自然の保全やふれあい活動の充実】

- ・ 地区内にある水辺の楽校、弁天沼、高田沼、刈沼、飛山城跡などの地域資源を活用し、人々が水や緑、動植物などにふれあうことができる取組を実施している。また、絶滅が危惧される生物の保存など、各所で自然環境保全活動が行われており、今後も清原地区の魅力のひとつである自然と上手く接しながら守っていくことが求められている。

基本的な考え方

- ・ 多くの住民が清原地区の魅力とする自然を子どもたちに引き継いでいけるよう、自然を守りながら不法投棄が無い秩序ある清潔で美しいまちをつくる。

■ 私たちの今後の取り組み

【自然の保全・共生】

- ・ 自然の保全と自然との共生を踏まえながら、不法投棄の監視体制の確立や地域ぐるみによる環境保全活動を行っていく。

【保全活動への参加と理解】

- ・ 地区内には自然環境保全の取組が数多く行われていることから、これらへの参加者を増やすことや取組内容を周知することなどにより、住民の保全活動への意識・理解を高める。

